

大阪国税局長賞

「長生きしてね」

大阪市立東中学校3年

伊藤 碧海

「長生きしてね」敬老の日の祖父への手紙への最後の決まり文句。私は昨年その言葉を書くことができませんでした。なぜなら、祖父が昨年の秋に脳梗塞で倒れてしまい、突然話せなくなり、右半身を自由に動かせなくなってしまったからです。私は不安と戸惑いでいっぱいでした。そんな中、祖父の生活の多くが介護保険制度のおかげで支えられていることを知りました。

税金は私たちの身近に様々な場面で使われています。国税庁のホームページを見ると「社会保障」「防衛関係費」「公共事業」「教育」などに使われていて、一番割合を占めているのは「社会保障」で医療費や年金などに多くの税金が使われています。

社会保険は、社会保障制度の一種で生活の中で困ったことが起きたらみんなで支え合う制度です。特に今、祖父の生活を支えている介護保険は、高齢になって、介護が必要になった人を社会全体で支えるための保険です。もし、介護が必要になった際、デイサービスや訪問介護などのサービスを安い費用で受けることができます。原則40歳以上の人人が払っています。家族だけでは支えきれない部分を社会全体でサポートしているのです。もしかしたら今日電車で前に座っていたあの人が、今日街ですれ違ったあの人が、祖父の生活を支えてくれているかもしれません。社会保険は「自分のため」であると同時に「誰かを助けるため」の仕組みでもあり、支える人と支えられる人が繋がっている制度なんだと分かりました。

祖父の生活や調べたことを通じて、税金は「ただ取られるお金」ではなく、「私たちや身の回りの人たちの生活を支える大切な仕組み」だと分かりました。大好きな祖父が脳梗塞で倒れて、昔、夜通し泣き止まない私を抱っこしてくれた腕も、一緒に犬の散歩に行ってくれた足も、私の名前を呼んでくれた声でさえ上手く出せなくなってしまって最初は戸惑ったし、ショックでした。だけどリハビリを頑張って私の名前を呼べるようになった時、どんな状態でも長生きしてほしいと強く思いました。私は今まで「長生きしてね」という言葉を定型文として使っていました。しかし、税の学びを通して、税金は支え合いが循環し、巡り巡って全員が互いに「長生きしてね」と願う社会を作り出していることを学びました。「長生きしてね」という言葉は単なる一言ではなく、私たちが互いに支え合い、共に生きるために大切なメッセージだと思います。誰もが安心して歳を重ねられる社会を繋げるために、今私にできることは少ないけれど、まずは祖父に心から「長生きしてね」という手紙を書こうと思います。